

通信小海

キヤッチボールを

牧師 水草修治

先月号に「天災は忘れたところに」というとばは寺田寅彦のことばであったろうかと書いたのだが、そうではないという指摘を読者からいただいた。筆者はかつて新聞でそう読んだので、うかつにも確かめず記憶だけで書いてしまったのだが、全集索引にも「天災は・・・」は無いらぬのである。ああ断定しなくて良かった(？)と胸をなでおろす。それにしても、手元の記事ことわざ辞典にもない。いったい「天災は」の出典はどこなのか。読者のうちでご存知の方がいたらお知らせください。

それにしても、このようなおはがきをいただいたり、訪問をして「通信を楽しみにしていますよ」と言っていたいたり、

【今月のひとば】

「確かに、今は恵みの時、今日は救いの日です。」

第二コリント六二

「通信を読んで、来てみました。」と訪ねてくださったたりする人がいると、筆者はたいへん励まされる。ありがたい。有料新聞ならば、購読者数で反応が計れるのだから、これは出しつぱなし新聞ゆえ、そういう反応も計りようがない。読まれているのか、多くの広告といっしょにごみ箱に直行しているのかわからない。

「投げてもし投げ返してもらえないボールをよく投げつづけられるね。」と、友人に感心されることがある。書きつづけられるのは、神さまからいただいた使命感と神さまの愛ゆえだろう。

太陽を上らせ、雨を降らせ、実りを与えて、天から恵みを注ぎつづけても、「ありがとう」の一言も無く、「神などいなくてもおれは生きられる」とつそびいていた、かつての自分に天の父はなお恵みを注ぎつづけてくださった。それを思えば、月一度の本紙などが

日本同盟基督教団 松原湖高原教会 牧師水草修治

牧師館 長野県南佐久郡小海町大字豊里一十六 一

〒三八四一一三 二六七九二四七七六

郵便振替 五三 六一六八三

黄色い十字架 パロの五十メートル北
ヤナシヨウの向かい

集会あんない

日曜日

朝礼拝 午前十時から十一時

夕礼拝 午後八時から九時

水曜日

聖書を読む会 午前十時半

祈り会 午後七時半

*初めての方も歓迎します。

*個人的相談にも乗ります。

いしたことはない。

筆者の願いは、「通信」の応答はともかくとして、本紙で紹介している天の父の愛に對して、あなたが祈りと感謝をもって返事をしてほしいということに尽きる。誰かがハンカチを落として、あなたがそれを拾ってあげたでしょう。それなのに、「ありがとう」の一言も無いとすれば、当然、あなたは「なんとという恩知らず礼儀知らずだ」と、その人を非難する気持ちになるだろう。

まして、今日もあなたにいのちを与え、太陽を上らせ、雨を降らせ、あらゆる恵みを注いでいてくださる神、そしてあなたのために命まで惜しまなかった救い主に感謝をしないで生活しないでよいものだろうか。神は愛のボールをあなたに投げてください。悔い改めと感謝の玉を投げ返して欲しい。

「私たちがまだ弱かったとき、キリストは定められた時に、不敬虔な者のために死んでくださいました。正しい人のためにでも死ぬ人はほとんどありません。情け深い人の

ためには、進んで死ぬ人があるいはいるでしょう。しかし、私たちが罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。」

ローマ書五六 八

脳みそをレンジでチン

電車に乗ると、あっちでもこっちでも携帯電話。高校生、ビジネスマン、主婦、時には小学生も。先日、ある人が「携帯電話をかけるたび、脳みそをレンジでチンしているようなものらしい。」と言っていた。そういう彼の手にも携帯があった。そういえば、米国では「携帯電話をかけすぎて脳腫瘍になった。これは携帯のメーカーがその危険性を十分に説明していなかったからである。」ということ、訴訟が起こされている。

十年後には、高校時代から脳みそをレンジでチンしつづけてきた人たちの脳腫瘍が

爆発的にふえるかもしれない。とにかく、「健康のため、かけすぎに注意しましょう。」

それにしても、どうして多くの人が携帯を持つのか。自分で必要を感じて持つことまで、筆者は悪いとは思わないし、将来自分も持つ可能性もなくてはならない。けれども、多くの若者にとっては、それがファッションだからという以外の理由はないのではないか。ファッションだからというのは、「みんな」が持っているから私も、ということだ。みんなが持っているのに、自分ひとり持っていないと恥ずかしい。みんなにあわせるためには、脳腫瘍になる危険にも目をつむる。

もしそうなら、奴隷だ。「みんな」の奴隷は、いつも「みんな」の目におびえているのである。私は、自由に生きたい。その秘訣は真の神を知ること。

「この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころはなにか、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるかをわきまえ知るために、心の一新によって、自分を変えなさい。」

ローマ書十二二

ただ一度

しかし、キリストは、ただ一度、今の世の終わりに、「ご自身をいけにえとして罪を取り除くために来られたのです。そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることがさだまっているのです。

へブル書九：二十六 二十七

*ビデオが壊れて

数年使ってきたビデオの機械がこわれた。これで三度目である。自分で開いてみたが、今回は部品がぼつきり折れてしまっていて、簡単には直りそうもない。酷使しすぎたらしい。タイムレンジャーとか仮面ライダーとかを録っては、一番下の四歳の息子が何度も何度も繰り返し見ていたのである。

家内と相談して、ビデオは当分買わないことにした。どうも子どもに時間のけじめがなくなる原因の一つにビデオがあるらしいと思えたからである。ビデオがあれば

番組を放映している時刻に関係なく何度でも見ることができる。だから便利。だが「きょうはドラエモン。やるべきことをさつさと片付けよう。」という気持ちにもならない。時間にだらしなくなる。わがままになる。

おおげさにいえば、ビデオは、「一期一会」という人生の哲理を見失わせる。人生一回限りという緊張感がなくなって、何度でもやり直しがきくと錯覚するようになる気がする。

ビデオはバーチャル・リアリティ(仮想現実)であって、ほんものの現実ではない。ほんものの現実の世界では、たいせつなことはやり直しがきかないことが往々にしてある。人との出会い。そして、神との出会い。

*ただ一度

冒頭に引用した新約聖書の『へブル書』には「ただ一度」ということが多用されている。キリストが十字架にかかって死なれたのは、私たちの罪を完全に償うためだということと教える文脈で「ただ一度」ということが用いられる。「ただ一度」は完全さを示す。不完全ならば毎年いけにえが必要であるが、キリストの十字架は完全なので歴史の中に

ただ一回で十分だった。

クリスチャンが「救われた」と確信できる根拠はここにある。キリストが十字架にかかって完全に私の罪を償ってください。だから、私は救いのために神さまに対して罪の償いめいたことをする必要がない。クリスチャン生活は罪の償いとしての修行でなく、神の恵みに対する感謝の応答なのである。

もうひとつ「ただ一度」が用いられる文脈は、「人には一度死ぬことと、死後にさばきを受けることが定まっている」ということである。人生は一回限り。ゴムで消してやりなおすわけにはいかない。神さまがくださった生命であり、一度かぎりの人生。だから、神のみ前に誠実に生きたい。歴史のなかで、今日という日は二度とは来ない。今日の人との出会いをたいせつにしたい。今日、神のくださったみことばをかみしめて生きたい。主イエスを信じなさい。きょうという日。

「確かに、今は恵みの時、
今は救いの日です。」第二コリント六：二

△幸福な家庭△

愛と性欲

若い娘が知るべきこと

「しかし、アムノンには彼女の言うことを聞こうとはせず、彼女をはずかしめて、これと寝た。

ところがアムノンは、ひどい憎しみにかまれて、彼女をきらった。その憎しみは、彼がいだいた恋よりもひどかった。アムノンは彼女に言った。『さあ、出て行け。』」

第二サムエル十三章

アムノン青年はタマルに恋いこがれ、悪友の手引きによってタマルとふたりつきりになり、彼女を辱めてしまいました。すると、今までのタマルへのアムノンの熱情は急速に冷え、熱情は憎しみに変わったのです。

なぜか。アムノンは単にタマルの肉体に対して欲望を抱いていたにすぎず、タマルその人に対する愛などは無かったからです。欲望と愛情を混同していたにす

ぎません。空腹な狼が満腹すれば、獲物に見向きもしなくなるように、アムノンはタマルを捨てたのです。

今日、若い娘たちがいと簡単に「恋人」にからだを許してしまつという風潮があります。高文研のアンケートで「初体験の動機は？」という質問に対して、女子の答えのうち、「愛していたから」「好きだったから」「強要されて」という三つの合計が七十パーセント近くを占めています。これに対して、男子の答えは「性欲から」「好奇心で」「セックスにあこがれて」という三つの答えの合計が五十パーセントを超えています。

このアンケートが意味することはなんでしょうか。それは、女性は男性がセックスを求めてくるとき、「断つたら嫌われてしまうかもしれない。」とか、「私をそんなに愛していてくれるなら。」と思つてからだを許してしまうのですが、男のほうは「相手は誰でもよい。単に性欲のはけ口が欲しかっただけ。」という場合がままあることを意味しています。そして、その動機が欲望にすぎなければ、当然、欲望が満たされると同時に興味は薄れてしまいます。

男の性欲には、そういつたらしい面があります。だからこそ、会ったことも話したこともない女性のヌード写真集などが売れるわけです。だから、娘さんたち、「おれが好きなら・・・。」と求める男は、たいいてあなたを単なる性欲のはけ口に利用しているのです。

かつてプレイボーイとして鳴らした男がこう言っています。「ボクはたくさん女を抱いたけれど、妻とは結婚まで手を握ることさえ、ためらいましたよ。大事なひとでしたら。」

中学生以上の娘さんたちには、ぜひ知っておいて欲しい現実です。本気であなたの人格を愛している男性は、輕輕しくあなたの肉体を欲しがったりはしません。また、娘さんにおよそロマンチックではない男の性欲の現実をはつきりと教えてやることも親の務めの一つだと思います。このページを読ませてあげるのも、一法。